

第6次全銀システムについて

平成21年1月27日

社団法人 東京銀行協会

第6次全銀システムの概要①

- 平成23年11月から稼動(予定)
- 安全性、安定稼動を最優先としつつ、新たに以下の施策を実施

① 国際化・標準化への対応

→ XML電文(ISO20022)の採用、EDI情報拡充、通信プロトコルにTCP/IPを採用、ネットワーク網にIP-VPN網の採用

② 顧客ニーズへの迅速・柔軟な対応

→ SOAの導入によるシステムの柔軟性向上

③ 決済リスク削減、業務継続体制の強化

→ 大口取引の日銀ネット次世代RTGS対応、新ファイル転送の導入、試験環境の整備

第6次全銀システムの概要②

① 国際化・標準化への対応

- XMLによるデータ記述(ISO20022)の導入
 - 電文フォーマットに、XMLフォーマットを追加。XMLは柔軟性の高いデータ記述方法であり、国際的な送金メッセージの次世代標準(ISO20022)として採用されている。外部システムとの接続設計の柔軟性向上、国際標準技術の導入によるメリットが期待できる。
- EDI情報の拡充
 - XMLフォーマットを使用することにより、EDI情報に使用可能な桁を20桁から140桁(繰り返し使用可)に増加。より多くのEDI情報を電文に添付することが可能に。
- 通信プロトコルにTCP/IPを採用、ネットワーク網にIP-VPNを採用
 - 技術面・製品供給面で安定したTCP/IPプロトコル、IP-VPNを採用することで、運用性向上とコスト削減の双方を実現。

第6次全銀システムの概要③

② システムの柔軟性向上

- SOAの導入

- システムをSOA(Service Oriented Architecture)により業務単位に再構築。改修の影響を抑えて適時必要な開発を可能に。

③ 決済リスク削減・業務継続体制の強化

- 大口取引に日銀ネット次世代RTGS決済を導入

- 1億円以上の内国為替取引を日銀ネットに転送し、即時決済を実施、銀行間日中決済リスクを削減。

- 新ファイル転送を導入

- センター代行発信や未送信為替明細の転送等も想定した効率性の高い仕組みを導入、緊急時対応を効率化、柔軟化。

- 試験環境の整備

- 試験日程の柔軟化により開発工期の短縮が可能となり、加盟行の業務継続体制を強化。

(参考)

大口取引の日銀ネット次世代RTGS決済スキーム

